

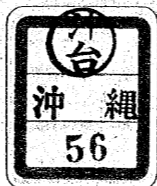
写真複写

32A 牛島満 長勇 西中将 自決状況

昭和二十六年三月三十一日

32A 憲兵尉 萩之内清

防衛研修所戦史部



沖繩周係戰史資料

沖繩作戰於牛島長雨中得  
自決狀況

沖56

沖繩作戰ニ於ケル牛島、長、兩中將ノ自決狀況

(註) 本資料、沖繩作戰間某三上軍司令部ト行動ヲ共ニセシ元憲兵大尉萩之内清氏ノ手記ニシテ軍司令官牛島中將、軍參謀長長中將兩閣下ノ崇高ナル御最後ノ狀況ヲ憶ブ、貴重ナル本資料ト認ム

尚本稿、九旬ニ亘ルカ戦苦闘ノ末期ニ於ケル手記ニシテ推敲尚不十分ノ故ヲ以テ固辭セラレタルモ、同氏ノ勞ヲ多クシ、當時ヲ憶ブ、一助タラシムベク敢テ加筆ヲ待ツテ不取敢提供ヲ乞ヒタルモノナリトテ附記ス

鳴呼西將軍ト共ニ落キテ摩文仁ノ月

廿秋之内憲兵大尉

六月二十日ヨリ戦車十數輛ヲ先頭ニシテ米軍ニ乘込マレタル摩文仁  
所高地ノ茅三丁上軍司令部戦斗指揮所洞窟ニ入ル。最後ノ  
段階近キ感ヲ深刻ナラシメテ居タ

茲ニ最モ正確ナル軍司令部首脳部ノ古武士的ナ堂々タル日本  
軍人ノ最後ヲ記述スル

月齡十二日上弦ノ月ニ青白ク南海ノ海原ヲ照ラシテ居ルガ遠淺  
ナリクヨリ起臥スル所高地ノ奇巖ニ米軍ノ間断ナキ艦砲  
重砲、迫撃砲又ハ豆ヲ炒ル様ナ機銃、流石物量ヲ誇ル  
米軍ノ水科學兵器ノ爆發、常夏ノ島ノ緑モ地ノ肌モ鐵火  
ノ坩堝ト化シテ仕舞ヒツタ。

殉忠ノ姿其ノ儘ニ斬込隊ノ各壕ヨリ米軍陣地ニ突入シテ  
岩頭ヲ紅ニ染メテ居ル

二十三日午前十時頃愈々最後ノ數刻ガ  
 半島軍司令官、長軍參謀長ノ兩中將閣下ノ和ヤカナル會談  
 山窮窟内ニテ尚續イテ居ル。軍司令各部各部ニ於テ  
 先任者ヲ中心ニ送カニ東方ヲ拜シ、天皇陛下萬歲ノ聲ガ岩  
 フ傳ツテ聞エテクル或ル組ニ砲聲ノ間ニ間ニ「海行カバレノ莊  
 重ナル歌ガ……嗚呼何タル莊嚴ゾ……各人、何物ト  
 モ知レヌ感激ノ淚ガ傳ツテ戰塵ニ汚レタ我衣ヲ濡ラシテ居ル。  
 凡ソ三時頃、各首魁神始メ殘余僅ク一傭人迄西閣下ニ暇  
 乞ノ御挨拶ヲ申上ゲテ、兩閣下ニ自分ノ子ヲ勞ル如ク今  
 迄ノ勞苦ヲ謝シテオラレタ。  
 愈々四時ガ。軍司令官閣下ニ茲九旬ノ戰中夜ヲ通常ノ  
 礼装ニ着替ヘラレタ。薄暗イ「ロイヤル」ノ光ニ純白ノ手套  
 一神々レサテ漂ハシテ居ル。  
 參謀長閣下ニ純日本式ノ白ノ肌着ニ、白筆ヲ墨跡鮮

カニ

忠則盡命

長軍

盡忠報國

ノ人字ヲ記シテ着用サレ無帽ダ。  
 「サア軍司令官閣下、先々暗イカモ知レマセンカラ長ガ御先ニ参リ  
 マセウレト參謀長閣下ニ先ニ立タレタ。軍司令官閣下ニ  
 「頼ミマセウ、コレカラ後ハ暑クナルカラ團扇ヲモ使ヒマセウレト  
 沖繩製ノ例ノ「フバ團扇」ヲ御持チニテ静カニ扇ギナカラ  
 「ニコニコ」レシテサカレル。  
 今ヤ人事ヲ盡シ天命ヲ俟タレ自決サレル將軍、嗚呼何  
 タル偉大ナル心境ゾヤ。一死ヲ見ルト歸スルガ如キコトトガ。  
 微笑シツツ殘余少キ部下ノ前ヲ通テレル次女……嗚呼人  
 カ神カ、今迄照ラレテ居タ月ニ没シタ。夜明ケニ未ダシ。  
 午前四時十分洞窟開口部ニ姿ヲ現サシタ。潮ノ香ガ